

サステナビリティレポート2022 編集方針

発行目的

当社グループは、サステナブルな経営の実現に資するために、以下の目的に基づいてサステナビリティレポート2022（以下、本レポート）を発行します。

- ① **説明責任の遂行**: 共創共生の姿勢を持つ企業グループとして、事業を通じた社会・環境への貢献と負荷低減について説明責任を果たします。
- ② **適切な社外評価の獲得**: 企業評価機関、長期投資家、NGO、有識者など、企業のESG（環境・社会・ガバナンス）全般について特に関心の高いステークホルダー（利害関係者）からの要請をふまえた情報開示を行います。特に、企業評価機関のESG評価項目は「国際社会やステークホルダーの期待・要請を集約したもの」と捉え、適切な評価獲得を目指します。
- ③ **経営改善への活用**: 経営におけるPDCAの「外部チェック」の一つとして、本レポートをもとにしたESG評価や対話での指摘事項を社内にフィードバックし、改善につなげます。

誌面の構成・掲載内容

- ・本レポートは、「トップメッセージ」「特集」および、「実践報告」「外部評価・データ集」で構成しています。
- ・「実践報告」では、ESGに分類分けして取り組みを整理し、各カテゴリの「担当役員メッセージ」と、2019年度よりスタートした環境行動計画（P020）・社会性中期計画（P067）の重点テーマごとに取り組みの進捗状況を報告しています。
- ・目次にある「ガバナンス」は、監督・意思決定に関するコーポレートガバナンス（P130～136）に限定した記載としています。また、内部統制については、本レポートでは社会性領

域に位置づけ、「リスク対応基盤」の章（P118～129）にて報告しています。

【トップメッセージ】 P003～006

当社グループの事業とESGの関係性や、事業を通じた社会・環境への貢献について、経営トップとしてのメッセージを掲載しています。

【特集】 P007～012

2021年度の取り組みのなかから、特にステークホルダーの皆さまに伝えたい内容を、特集として詳しく紹介しています。

【実践報告ページ】 P013～136

- ・ESGのカテゴリごとに、「担当役員メッセージ」を掲載するとともに、各カテゴリの重要課題ごとに、「方針・考え方（課題へのアプローチ）」「マネジメント」「主な取り組み」を整理し、体系的に報告しています。
- ・地球環境への貢献や事業を通じたステークホルダー（お客さま、従業員、取引先、地域市民、株主）との良好な関係の構築を支える仕組み、コーポレートガバナンスについて報告しています。

【外部評価・データ集】 P137～187

環境行動計画・社会性中期計画の実績・自己評価のほか、外部評価、社会・環境の詳細データを掲載しています。

報告媒体

〈日本語版〉と〈英語版〉を、PDFにて発行しています。

想定している読者対象

企業評価機関、長期投資家、NGO、有識者などを主たる読者対象とし、お客さま、取引先、従業員、地域市民（NPO・NGOを含む）、株主、行政などの幅広いステークホルダーを対象としています。

報告対象組織

大和ハウス工業を中心に大和ハウスグループ全体（2022年3月31日現在、連結子会社421社、持分法適用関連会社57社および持分法非適用関連会社1社）について報告しています。

報告対象期間

2021年度（2021年4月1日～2022年3月31日）を基本としていますが、必要に応じて2020年度以前・2022年度以降の活動内容も掲載しています。

参考にしたガイドライン

「GRI（Global Reporting Initiative）サステナビリティ・レポートング・スタンダード」、国際標準化機構「ISO26000」、環境省「環境報告ガイドライン（2018年度版）」、IIRC「国際統合報告フレームワーク」、経済産業省「価値協創ガイダンス」

発行日

日本語版:2022年7月 英語版:2022年9月（予定）
（年1回発行、次回発行予定:2023年7月）

目次

編集方針	001
目次	002

トップメッセージ	003
----------	-----

特集 ① 私たちの“将来の夢”の実現に向けて	007
② 新たな共創と次世代育成 コトクリエで描く未来社会デザイン	009

CHAPTER 01 | 実践報告 環境

マネジメント

担当役員メッセージ	014
環境長期ビジョン	017
環境行動計画(エンドレス グリーン プログラム)	020
環境行動計画(エンドレス グリーン プログラム 2026)	021
環境行動計画(エンドレス グリーン プログラム 2021)	022
総合(環境貢献型事業の拡大)	023
環境経営の基盤強化	024
環境マネジメント/サプライチェーンマネジメント(環境) / 環境コミュニケーション	

重点テーマ

1 気候変動の緩和と適応 TCFDへの対応	032 040
2 自然環境との調和(生物多様性保全)	045
3 資源循環・水環境保全(長寿命化・廃棄物削減)	051
4 化学物質による汚染の防止	057

CHAPTER 02 | 実践報告 社会

マネジメント

担当役員メッセージ	063
社会性長期ビジョン	066
社会性中期計画(エンドレス ソーシャル プログラム)	067
CSR マネジメント	068
人権マネジメント	070

重点テーマ

1 イノベーション基盤	076
[課題1] 社会課題の解決に資するイノベーション体制の構築	
[課題2] 不動産開発における社会的包摂(インクルージョン) の推進	
2 人財基盤	083
[課題3] 従業員の働き方改革	
[課題4] 人財育成と採用強化	
[課題5] ダイバーシティ&インクルージョン	
3 技術・ものづくり基盤	093
[課題6] 施工現場の安全・安心の徹底	
[課題7] 取引先企業との連携によるものづくりの生産性向上	
[課題8] グループCSR調達の促進と効率化	
4 顧客基盤	106
[課題9] コーポレートコミュニケーションの強化	
[課題10] 顧客長期リレーション対応の促進	
5 コミュニケーション基盤	112
[課題11] 財務・非財務コミュニケーションの一体化・ システム強化	
[課題12] 激変するコミュニケーション環境への対応 地域共生活動・地域への貢献	
6 リスク対応基盤	118
[課題13] 災害・異常気象を前提とした事業実施体制の確立	
[課題14] 工場における人権デューデリジェンスの確立	
[課題15] 企業倫理・コンプライアンスの確立	
[課題16] グローバル展開に向けた長期視点での経営基盤の構築 リスクマネジメント/内部統制/腐敗防止	

CHAPTER 03 | 実践報告 コーポレートガバナンス

マネジメント

担当役員メッセージ	131
コーポレートガバナンス	133

CHAPTER 04 | 外部評価・データ集

外部との協働・外部からの評価

外部との協働	138
主な認定・表彰など	140
ESGインデックス組み入れ状況	143

データ集

環境行動計画の実績と自己評価	145
社会性中期計画の実績と自己評価	147
環境データ	149
社会データ	182
コーポレートガバナンスデータ	187

第三者保証報告書	188
----------	-----

編集後記	189
------	-----

本レポートに掲載しているGHG情報などについて、第三者保証を受けており、その対象となる情報については、各項目に☑を記載しています。(第三者保証報告書はP188に掲載)

「社会データ」においては、以下の企業を「グループ主要12社」として定義しています。株式会社コスモスイニシア、大和ハウスリアルティマネジメント株式会社、大和ハウスリフォーム株式会社、大和物流株式会社、大和ライフネクスト株式会社、大和リース株式会社、大和リゾート株式会社、大和リビングマネジメント株式会社、株式会社デザインアーク、日本住宅流通株式会社、株式会社フジタ、ロイヤルホームセンター株式会社